

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成19年 11月 20日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームあらた (鹿児島県)
-------------------	------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u> 氏名 <u>藤田 泰洋</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者 ・ 計画作成担当者</u> 氏名 <u>領家知香子・中田みづえ</u> ヒアリングを行った職員数 5名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670105115号		
法人名	鹿児島メディカル		
事業所名	グループホームあらた		
所在地	鹿児島市荒田1丁目5番14号 (電話) 099-252-2561		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成19年12月19日

【情報提供票より】 (平成19年10月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算14.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	4階建ての	～ 1～3階4階一部 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1100円/日	その他の経費(月額)	600円/日
敷金	有() 円	〇無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (10月17日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	9	要介護2	4		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5					
年齢	平均 84歳	最低	73歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たちばな循環器科いいやま病院・小田代病院・村岡歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の方々がホームを理解し、気軽に立ち寄り入り口として、玄関の掲示板の設置、エントランスを開放し、絵画、花など人々をひきつける環境づくりが積極的に行われている。また、ホーム全体も大人が落ち着く、温かみのある空間を作り出している。開設当時から職員の入れ替わりも少なく、入居者は、馴染みある職員と共に過ごし、入居者一人ひとりの役割や楽しみごとの中で、職員と共に支えあう関係ができていく。安心できる医療体制も整っており、入居者や家族などの意見、介護指導者からの助言等を活かし、常にサービスの質の向上を目指している。地域の小学生を対象に認知症高齢者の理解への講話や、ホームで認知症介護に関する相談会を開くなど地域に根ざした信頼あるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ヒヤリハットを活用した安全対策委員会の充実、安心して入浴ができる活動パターンの理解、緊急時の応急手当の研修など評価を活かして具体的な改善がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、各ユニット毎に一項目づつ全職員で自己評価を行い、日々のケアの気づきなどを再確認をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、入居者やホームの取り組みの状況などを報告し、そこでの意見を活かして、朝の献立の見直しや認知症・介護相談会を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や年2回の家族交流会など、家族の意見を表せる機会をつくり、出された要望などは、ミーティングで話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、清掃作業や地域文化祭、小学校の運動会やベルマーク活動など地域の行事等に参加している。また、小学生や地域住民が気軽に立ち寄ることができる環境づくりにも配慮されており、気軽に立ち寄っている。地域の一員として地元の人々と交流する取り組み・工夫がなされている。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村朋美 / 調査員 藤田泰洋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の住み慣れた地域の中で、一人ひとりの想いを大切に、安心して暮らし支えあうことを目指した地域密着型サービスとしての理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝の申し送りや毎月のミーティング、日々のケアの場面の中で、共に確認しあいながら、日々理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃作業や地域文化祭、小学校の運動会やベルマーク活動など地域の行事等に参加している。また、小学生や地域住民が気軽に立ち寄ることができる環境づくりにも配慮されており、地域の一員として地元の人々と交流する取り組み・工夫がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、各ユニット毎に全職員で自己評価を行っている。また、ヒヤリハットを活用した安全対策委員会の充実など評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者やホームの取り組みの状況などを報告し、そこでの意見を活かして、朝の献立の見直しや認知症・介護相談会を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホームあらた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市町村担当者とこまめに相談、助言を得ながら、市町村との関係づくりを積極的に図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なホーム新聞の発行や近況報告の送付等で、ホームでの生活状況や職員の異動を報告している。また、健康状態や気になることなどは、随時家族の来訪時や電話などで連絡し、金銭管理も状況に応じて家族の来訪時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年2回の家族交流会など、家族の意見を表せる機会をつくり、出された要望などは、ミーティングで話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はない。開設当時の職員が多く馴染みの関係作りが図られている。新規の採用者には、入居者へ紹介を行い早くお互いになれるように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、外部研修も交代で参加し、研修後には伝達研修を行っている。運営者は職員の資格習得も支援しており、人材育成に力をいれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入しており、職員は交代で研修会に参加している。他のホームの交流、見学を行い、それらを活かしサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

グループホームあらた

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて、一緒にお茶や食事をするなどホームで過ごしてもらい本人が安心、納得して入居できるよう家族等と相談しながら徐々にホームに馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から調理や昔の暮らしぶり、生活の知恵など教わりながら、入居者と共に過ごし、学び支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に、入居者が気軽に思いや意向が言えるよう会話や表情、状況など配慮し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	6ヶ月に一度は入居者、家族、職員などの出席のもと担当者会議を開催しそれぞれの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。状況変化時には、随時、入居者、家族、職員などと話し合い現状に即した新たな介護計画を作成している。		

グループホームあらた

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし訪問看護や往診などの医療活用の強化や、本人、家族などの状況に応じて、通院介助、墓参りや自宅訪問など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、医療連携加算に基づき看取り指針を定めており、入居時に本人、家族に説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねることがないように留意している。個人情報の保護についても内部研修を行い職員一人ひとりが理解し実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大まかな生活の流れがあるが、入居者の希望や状況に応じて、起床時間、食事時間、入浴など柔軟に支援している。		

グループホームあらた

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の得意とする料理や希望を取り入れた献立となっている。買い物や調理、盛り付け、配膳、食事、片付けを入居者と職員が会話をしながら一緒に和やかにやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本としながら、入居者の希望に応じて毎日入浴もできる。また、入浴しない日は足浴を行っている。入浴したくない入居者には、無理強いすることなく、理由や希望を取り入れ柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理などの家事、編み物、歌、外出の機会づくりなど入居者一人ひとりの生活歴を活かした役割や、趣味や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や状況に応じて、日常的に散歩や買い物等に出かけている。また、屋上を活用したお茶飲みなどの外気浴や近場への足浴、ドライブ、外食など柔軟な外出の支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの効果を十分に生かすため、各ユニットの入り口も玄関も開放している。入居者の言動を職員は見守り、外出したい入居者には、さりげなく声掛けや同行をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼・夜想定避難訓練が地域住民も参加し行われている。日頃より消防分遣隊や地域の人々と交流し、災害時の協力関係を築いている。		災害について一定の準備はなされているが、備蓄については更に幅広く工夫されることが望まれる。

グループホームあらた

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録し、把握している。入居者の状況に応じて、お粥や刻み等食べやすいように工夫している。協力病院の管理栄養士による専門的観点からの栄養バランス等のアドバイスも受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、布地を上手く利用し温かく家庭的であり、季節に応じた絵画や花、果物等がさりげなく置かれている。入居者の年齢に応じた居心地よい環境づくりに配慮や工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、テレビ、ラジカセ、仏壇、編み物道具、布団類など入居者の好みや馴染みのあるものが持ち込まれており、入居者の一人ひとりが、居室でゆっくと居心地良く過ごせる工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。